

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.11.15 No.182 連絡先 FAX 042-555-1911



キャンプ座間のUH-60A 横田基地周辺を旋回

11月8日、10時30分頃、米陸軍・キャンプ座間のUH-60Aヘリが横田基地周辺を旋回していました。偉い人が基地周辺の空中視察をしていたのでしょうか？との声も…。キャンプ座間にはUH-60Aブラックホークが5機いるそうです。横田基地には8日以前にも、11月4日、10月30日、10月29日に飛来しています。

先日、神奈川の方から、「横田基地のUH-1Nヘリコプターが、キャンプ座間や相模補給廠で飛行訓練している」「10月5日も、横田のUH-1Nヘリがキャンプ座間で、2～3度タッチアンドゴーをやって姿が見えなくなった。多いときは午前、午後と2機編隊で来る時もある。」と聞きました。座間のUH-60Aも横田基地に来ていると話しましたが、ヘリも思うままに飛んでいます。

秘密保護法案に反対声明 テレビジャーナリスト 岸井氏、鳥越氏ら

特定秘密保護法案は廃案に、と11日、日本プレスセンターで、田原総一郎、岸井成格（しげただ）、田勢康弘、鳥越俊太郎、金平茂紀、大谷昭宏、川村晃司、青木理（おさむ）の8氏が出席して記者会見しました。声明は「法案が成立すると、取材・報道の自由は著しく制限され、ひいては、国民の知る権利が大きく侵害されることになりかねません」「今日、緊急にここに駆けつけた私たち以外にも、多くの同調者がいます」などと語りました。「国政調査権にも制限がかかるということ、国会議員に考えていただきたい」（岸井氏）、「これでは事実上取材ができなくなる」（田原氏）、「国家安全保障会議（日本版NSC）設置法、特定秘密保護法、集団的自衛権の3点セットで日本を戦争する国に変えるということだ」（鳥越氏）など、批判が続出しました。

MV22オスプレイがパラシュート降下訓練をした 伊江島に行く ③

パラシュート訓練は、かつて読谷捕縄飛行場で行われていましたが、1999年10月21日の「SACO案件に関する日米合同委員会合意」で、「伊江島補助飛行場に移転する」ことになりました。



訓練時間ですが、何と夜の11時までになっているそうです。ひどいですね。伊江島補助飛行場に飛行機は配備されておらず、全て飛来機が訓練しています。

伊江島にはコーラル（サンゴ）滑走路があり、そこで横田基地にも飛来するKC130空中給油機やMC130特殊作戦機などが強襲離着陸訓練を行っており、粉塵で葉たばこが被害を受けたと聞いたことがあります。そして、MV22オスプレイが普天間基地に配備されたあとは、3トンブロックを吊り下げての飛行訓練はじめ、訓練が盛んに行われています。5月には、横田基地に来てパラシュート降下訓練をしたトリイステーションの特殊部隊が、オスプレイを使って降下訓練をしました。米軍は、特殊作戦機CV22オスプレイの横田基地配備を狙っています。MVオスプレイは配備撤回を！ CVオスプレイは嘉手納にも横田にも配備するな！ 写真は伊江村提供。（MT 続く）

秘密保護法は国民の知る権利を奪い 戦争への道に突き進む (No. 182 の裏面)



2009年1月、横田基地の撤去を求める西多摩の会では、航空自衛隊航空総隊司令部棟の建築図面の情報開示を求めました。

後日、届いたA1版の図面20枚は、真っ黒に塗られていました。

「不開示とした部分とその理由」には「各階の平面図・立面図・配置図・矩計図・断面図の図面内容については、防衛省・自衛隊の施設の構造、性能、強度又は配置に係る情報であるため、これを明らかにすることにより当該施設の防御能力が推察され、防衛省・自衛隊の任務の効果的な遂行に支障を生じさせるおそれがあることから、法第5条第3号に該当し不開示とします。」と書かれていました。国民に明らかにできない建物の中は、秘密がいっぱいです。

在日米軍基地 「思いやり予算」で資産価値世界一！ 5年連続

米国防総省の「基地構造報告 2013 会計年度版」は、米国内外のすべての米軍基地を対象に、基地施設と支援インフラの価値を算出（土地は除く）しています。同報告によると、在日基地の価値総額は**452億8490万ドル**（12年9月末現在、以下同じ）となり、当時の為替レート（日本円で換算）で**約4兆円**に上っています。第2位の在独基地は407億2780万ドル、第3位は韓国の150億9780万ドルです。在日基地の1位は5年連続です。

基地ごとの資産価値では、上位4位までを嘉手納、横須賀、三沢、横田の在日基地が占めました。

1位の嘉手納基地は、総面積は約19.95km²。3,700mの滑走路が2本あり、200機近くの軍用機が常駐する極東最大の空軍基地です。

在日基地の資産価値が総額4兆円で世界一になっている最大の要因は、在独基地の大幅な削減が進む一方、在日基地は維持され、日本政府の莫大な「思いやり予算」で強化が図られてきたからで、

米軍が日本の基地を手放したくない大きな理由にもなっています。米国防予算の大幅削減が求められている中、今後、米側から一層の負担を迫られる危険があります。

在外米軍基地の資産価値上位5位

(単位 100万ドル)

- | | |
|----------------------|--------|
| (1) 嘉手納空軍基地 (日本・沖縄) | 5857.2 |
| (2) 横須賀海軍基地 (日本・神奈川) | 4679.8 |
| (3) 三沢空軍基地 (日本・青森) | 4044.4 |
| (4) 横田空軍基地 (日本・東京) | 3701.3 |
| (5) ラムステイン空軍基地 (ドイツ) | 3646.6 |
- (米国防総省「基地構造報告 2013 会計年度版」から)

オスプレイ訓練地域は無限定 岸田文雄外相 衆院外務委で

11月6日の衆院外務委員会で日本共産党の笠井亮議員は、米海兵隊の垂直離着陸機MV22オスプレイの沖縄県外への訓練移転についてただしました。

日米安全保障協議委員会(2プラス2)の共同発表(10月3日)は「オスプレイの沖縄における駐留及び訓練の時間を削減する、日本本土及び地域におけるさまざまな運用への参加」と明記しています。笠井議員がこのなかの「地域」についてただすと、岸田文雄外相は「アジア太平洋地域をめぐる周辺だ」と述べ、「地域」が無限定であることを認めました。

日米合意では、米軍航空機の移転訓練で追加的費用の4分の3を日本政府が負担しています。

笠井議員は、オスプレイの訓練を増加させることになれば追加的経費も要求されるのではないかと質問。岸田外相は「日本側から申し入れて、(日本側が)負担をするということはある」と答えました。笠井議員は、『沖縄の負担軽減』を口実に、米側が要求すれば際限のない負担を強いられる。オスプレイの配備・訓練は、海外への『殴りこみ』任務を遂行するための『侵略力』を高めるものだ」と指摘し、同機の配備撤回と低空飛行訓練の中止を求めました。